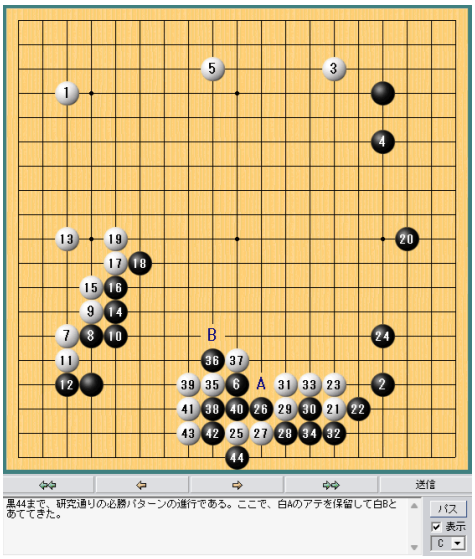
37. 下辺左側の白を捨て気味にきた時の対応（その 1）

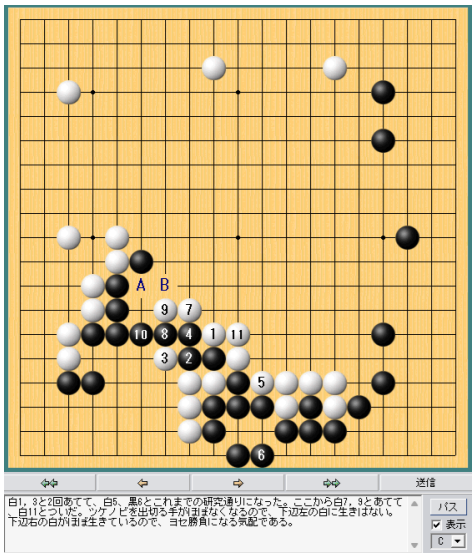
Trend126 君と 136 君との対戦で、15 図（ｐ.102）の後、左下の白を放棄し、下辺右側を補強してくる経験をした。以前にも書いたが、下辺左の白を小さく取っているだけでは、ヨセで負けるパターンになる。その中でも、ヨセで 1、2 目残して勝った経験を記しておく。

【79-1 図】



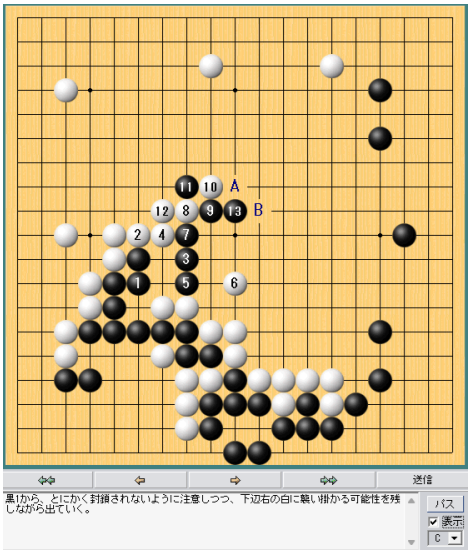
【79-1 図】黒 44 まで、研究通りの必勝パターンの進行である。ここで、白 A のアテを保留して白 B とあててきた。A をコウダテとして残す考えだが、この局面で下辺左の白を捨てる可能性を考えているわけだ。捨てた後の白 A のコウダテは絶対となる。

【79-2 図】



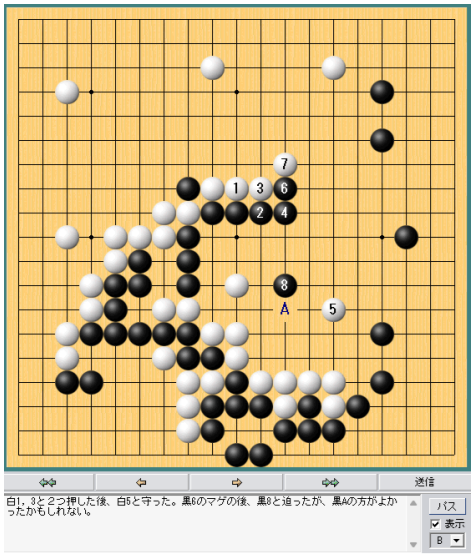
【79-2 図】白 1，3 と 2 回あてて、白 5、黒 6 とこれまでの研究通りになった。ここから白 7，9 とあてて、白 11 とついだ。ツケノビを出切る手がほぼなくなるので、下辺左の白に生きはない。下辺右の白がほぼ生きているので、ヨセ勝負になる気配である。下辺左をそのまま取っているとすると、地合いでは先行しているので、1)左上の削減と 2)右辺の地の確保、3)中央に大きな白地を作らせないことの 3 点が勝敗のカギである。まずは、黒 A とついで中央へ出ていく。重要ポイントは B とかけついではいけないということだ。黒 B では、白 A と放り込まれたあと、外側がまるとツケノビの間を出切る手が生じる。

【79-3 図】



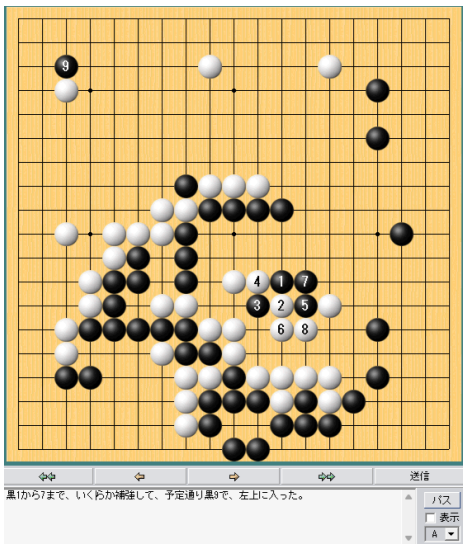
【79-3 図】黒 1 から、封鎖されないように注意しつつ、下辺右の白に襲い掛かる可能性を残しながら出ていく。白Ａには黒Ｂと伸びて、下辺右の白が薄くなるという主張である。中央から左上にかけて、白模様が形成されるので、左上隅に入るタイミングが重要である。

【79-4 図】



【79-4 図】白 1，3 と 2 つ押した後、白 5 と守った。黒 6 のマゲの後、黒 8 と迫ったが、黒 A の方がよかったかもしれない。

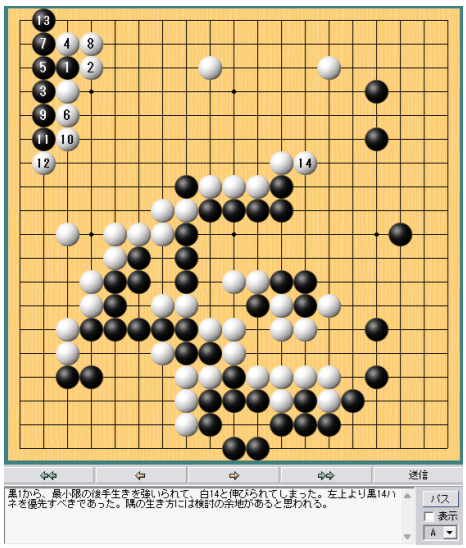
【79-5 図】



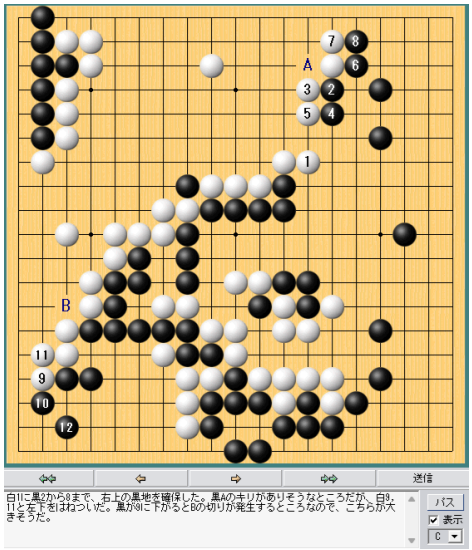
【79-5 図】黒 1 から 7 まで、いくらか補強して、予定通り黒 9 で、左上に入った。下辺右の白が生きたので、ヨセ勝負となっている。左上で大きく生きることが勝敗に直結する。

【79-6 図】黒 1 から、最小限の後手生きを強いられて、白 14 と伸びられてしまった。左上より黒 14 ハネを優先すべきであった。また、左上隅の生き方には検討の余地があると思われる。

【79-6 図】



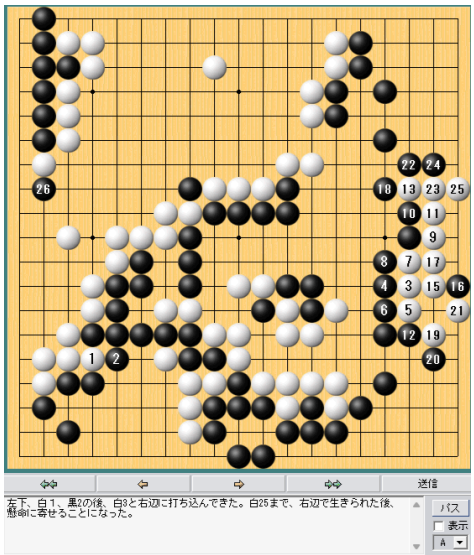
【79-7 図】



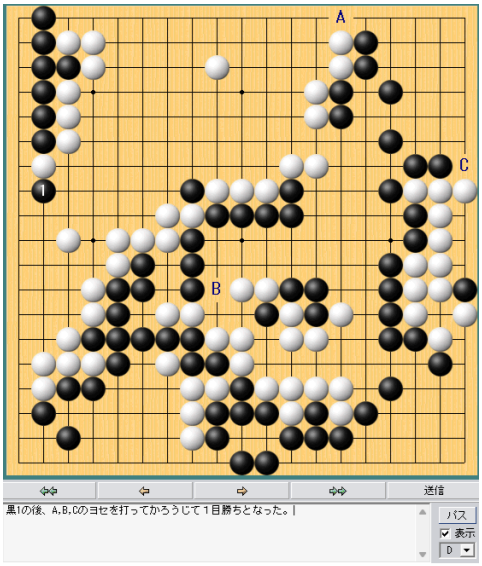
【79-7 図】白 1 に黒 2 から 8 まで、右上の黒地を確保した。黒 A のキリがありそうなところだが、白 9，11 と左下をはねついだ。黒が 9 に下がると B の切りが発生するところなので、こちらが大きそうだ。

【79-8 図】左下、白 1 、黒 2 の後、白 3 と右辺に打ち込んできた。白 25 まで、右辺で生きられた後、懸命に寄せることになった。

【79-8 図】



【79-9 図】



【79-9 図】黒 1 の後、A,B,C のヨセを打ってかろうじて 2 目勝ちとなった。（以下略。139 手、黒 2 目勝ち）